

認知症サポーターになりませんか？

あなたが変われば、町が変わる。 認知症について考えましょう。

現在、認知症の人は全国で160万人を超え、約20年後にはその倍ぐらいまでに増加するのではないかとされています。厚生労働省は平成17(2005)年に「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」を組織し、「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として、「認知症サポーター100万人キャラバン」を推進しています。

今回はキャンペーンの概要及び認知症サポーターについてお伝えします。



認知症の人を地域で支えたい！ どうすればいいの？

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族に対して偏見を持たず、温かい目で見守ることが大切です。まずは地域や職場の仲間たちと一緒に認知症サポーター養成講座を受講してみませんか？

キャラバン・メイト※（講師役）

認知症サポーター

「認知症サポーター養成講座」を受けた人が「認知症サポーター」です。認知症サポーターは、なにかを特別にやってもらうものではありません。認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になればいいのです。そのうえで、自分のできる範囲で活動する人を認知症サポーターと称します。また認知症を支援する「目印」として、ブレスレット(オレンジリング)をつけてもらい、この「オレンジリング」が連携の「印」になるようなまちを目指します。



※キャラバン・メイトは認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を務めていただく人です。キャラバン・メイトになるためには所定のキャラバン・メイト研修を受講し登録する必要があります。

認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100人会議宣言

1. わたしたちは、認知症を自分のこととしてとらえ、学びます。
2. わたしたちは、認知症の人の不安や混乱した気持ちを理解するよう努めます。
3. わたしたちは、認知症の人が自由に町に出かけられるよう、応援します。
4. わたしたちは、認知症の人や家族が笑顔で暮らしていけるよう、いっしょに考えます。
5. わたしたちは、市民や企業人としてできることを行い、安心して暮らせる町づくりをめざします。

平成17年7月8日に第1回「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」が開催され、正式に会が発足して上記の宣言がなされました

認知症サポーター養成講座 基本カリキュラム （例）

基本となる内容	標準時間
● 認知症サポーター100万人キャラバンとは	15分
● 認知症を理解する (1) 1 認知症とはどういうものか 2 認知症の症状 3 中核症状 症状1 記憶障害 症状2 見当識障害 症状3 理解・判断力の障害 症状4 実行機能障害 症状5 感情表現の変化 4 周辺症状とその支援 元気がなくなり、引っ込み思案になることがある 身のまわりのことに支障が起こってくる 周辺の人が疲弊する精神症状 行動障害への理解	30分
● 認知症を理解する (2) 5 認知症の診断・治療 早期診断、早期治療が大事なわけ 認知症の治療 認知症の経過と専門家との関係 成年後見制度/地域福祉権利擁護事業 6 認知症の予防について 7 認知症の人と接するときの心がまえ 8 認知症介護をしている人の気持ちを理解する	30分
● 認知症サポーターとは ● 認知症サポーターのできること	15分

開催中の
キャンペーン

認知症サポーター 100万人キャラバン



認知症サポーター
養成講座の様相

認知症の理解を深めるために、 全国規模で幅広く展開中!

平成21(2009)年度をめぐり、認知症について学び本人と家族を応援するサポーターが全国で100万人に達することを目標に掲げたキャンペーンです。

平成20(2008)年8月末の段階では、サポーター数は全国で58万人を超えており、平成20年7月の国のプロジェクトの報告書では、平成26(2014)年までに400万人養成に目標数が増員されました。

大阪市では、これまでに176人の「キャラバン・メイト」が登録され、5,250人の「認知症サポーター」が誕生しています(平成20年3月末日現在)。1人でも多くの方が認知症についての理解を深め、認知症の人や家族を応援していき、だれもが安心して暮らしていける地域づくりのため、ぜひあなたもご参加ください。

認知症サポーターに聞きました!

35歳・主婦の場合

今、自分の住んでいる地域にわりと高齢者の方が多かったです。それと、いつか自分も認知症になるかも知れないという不安もあり、今のうちから何かの役に立てばとサポーターになりました。特別な活動をしているわけじゃありませんが、たとえばスーパーで値札が見にくくて困ってらっしゃる高齢者の方に気軽に声をかけたりはしています。もしサポーターじゃなかったら、きっと恥ずかしかったでしょうね。そういう姿を自分の家族も見てくれているので、自然と意識は伝わっているように思います。

担当者 からの 声

最近は小学校での開催依頼が増えてきてます。

マンション等の住民や地域のネットワーク委員、あるいは高齢者施設の人たちなど「こんなにも需要があるのか」というぐらい『認知症サポーター講座』の問合せが増えています。特に最近は、子どもたちの祖父母にも密接に関係するという理由で「小学校で開催してもらえないか」という依頼も多いです。これからの地域づくりに、あなたの力を貸してください。

認知症になっても安心して暮らせる 地域づくりに参加するには

キャラバン・メイト養成講座講師 沖田 裕子

認知症は、だれがなってもおかしくない病気です。安心して暮らすには、多くの人々の理解と協力が必要です。子どもたちにも、商店の人にも、郵便局や銀行の人にも…色々な人に受講してもらうことが大切です。

また認知症サポーターの養成は、一度に90分講義するよりも、地域のいろいろな集まりで少しずつ繰り返し行われる方が理解を深めます。地域で少しずつ勉強の機会を持って、生活の中での助け合いにつなげてください。

(キャラバン・メイトは、学校、職場、地域で認知症の人や家族を支援するサポーターを育てていきます)

その他、全国各地での キャンペーン等の取り組み

■「認知症でもだいじょうぶ町づくり」キャンペーン

認知症の人の本来の力を活かしてともに暮らす町づくりの活動を全国で育むことを目的として、認知症の人を地域で支える活動を広く全国から募集し、紹介します。積極的にご応募ください。

主催:認知症介護研究・研修センター東京ほか

URL <http://www.dcnnet.gr.jp/campaign/>

■認知症の人「本人ネットワーク」支援

認知症の人による認知症の人のためのネットワークについて本人どうして話し合う「本人会議」開催のほか、全国各地の「本人のつどい」の訪問調査や、インターネットを活用した本人ネットワークの立ち上げや継続的活動のノウハウをガイドブックとして作成します。

主催:(本人ネットワーク)支援委員会ほか

■認知症の人や家族の力を活かした ケアマネジメントの推進

本人・家族の力を活かしたケアマネジメントの学習会を全国各地で開催するほか、本人・家族がケア関係者とケアマネジメントに取り組むため継続的に支援し、各地の取り組みをガイドブックなどでご紹介します。

URL <http://www.dai-jobu.net/>

認知症サポーターに ご興味のある方は…

☎06-6765-5606

(社福)大阪市社会福祉協議会 福祉部 地域福祉課

までご連絡ください